

学校図書館法

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする。

学校教育目標

- 一、思いやりのある子
- 一、やりぬく子
- 一、元気な子
- 一、考える子

児童の実態

読書意欲はあり、すすんで読書に取り組んでいる。ただ、好きな本を読むだけの児童が多いので、読書の幅や本の活用の仕方により変化がない。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、主体的に学ぶ意欲と人間形成に必要な様々な資質・能力を育てる。

ねらい

- ・児童の読書意欲を高め、豊かな心情と幅広い知識を身につける。
- ・学校の図書館の活用の仕方を学び、目的に合った資料や情報の収集の仕方を身につける。
- ・資料から必要な情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ・計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。
- ・学校図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ・探究的な学習を進めるために適した図書館環境を整備する。

各学年の重点目標

第一学年	・読み物や調べる本を楽しみながら読もうとする。 ・親しみをもって図書館を利用できる。	第三学年	・様々な種類の本を読もうとする。 ・進んで図書館を利用して調べようとする。	第五学年	・目的に合った本を選んで、進んで読もうとする。 ・目的に応じて図書館を適切に利用する。
第二学年	・読み物や調べる本を進んで読もうとする。 ・図書の扱い方や借り方などを正しく理解し、行うことができる。	第四学年	・読書の幅を広げ、進んで読み、読書量を増やす。 ・図書を活用した調べ学習に意欲的に取り組む。	第六学年	・計画的に本を選んで、本を読む習慣をつける。 ・学び方を身に付け、自己の課題解決に役立てる。

具体的な取り組み

【各教科】

- 図書館の資料を活用し、課題解決学習、調べ学習、個別指導やグループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 読書指導を行い読書習慣、態度を養う。

【読書科】

- 「読み聞かせ」「ブックトーク」等による読書意欲の向上。
- 読書科ノートを活用した探究的な学習の推進。
- 朝読書による読書の習慣化。

【総合的な学習の時間】

- 学び方や考え方を身に付ける。
- 課題の解決、探究に取り組む。
- 系統的に情報活用能力を育成する。

【道徳】

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で、自分を深め、道徳的信条を培う。

【特別活動】

- 図書委員会を中心に、児童の思いを取り入れて、図書館を運営し、読書活動推進を展開する。
- 学級活動や委員会・クラブ活動の中で積極的に学校図書館を活用する。

【家庭・地域との連携】

- PTAによる読み聞かせ・図書館整備ボランティアの「え・ほん」の会との連携。
- 地域図書館との連携。図書館司書の派遣
- 家庭での読書の呼びかけ

図書館環境の整備・充実

推進組織の確立・充実

読書科の計画的な実施